

期待される議会への改革に向けて

平成23年6月22日

議会運営委員会

委員長 伴 捷文 殿

蒲郡市議会議長 波多野 努
同 副議長 柴田 安彦

いま蒲郡市議会は、より開かれた議会・市民に期待される議会に向けた改革が求められています。議会のあり方は、市民意識や社会情勢の変化に応じつつも、憲法に定める二元代表制の趣旨に沿い、団体意思の決定と執行機関を監視するという2つの機能を十分発揮するたゆまぬ努力が必要です。

こうした点を考慮し、議会のあり方を総括的に規定する「基本条例」の制定にこだわらず、議会運営委員会が中心となり、各会派の意見を反映させながら一致できる対策を順次実施してきました。具体的には、議員報酬の見直しなどの経費節減、委員会の公開、会議録検索システム、一般質問の一問一答制、対面式発言席の導入や本会議のインターネット録画中継など、独自の方法も取り入れながら、なるべく経費をかけずに実現をしてきたところです。今後もこの方向性を踏襲したいと考えています。

いっそうの機能強化が求められる本議会にあっては、議員定数が20名となったことも踏まえ、活発な議論をおこないながら変革を続けなければなりません。そのために当面、以下の点について検討すべきだと考えます。

- ①議場・委員会室の様子、資料等を伝える手段・機会を増やすこと（各種会議の生中継、CATV、インターネット公開など）
- ②議会の活動等を知らせ、市民との意見交換をする機会を増やし、議会の存在感を高めること（議会報告会、ホームページの充実など）
- ③活発で分かりやすい議論を深めるための工夫をすること（反問権など）
- ④議会の政策立案能力を向上させ、住民の具体的な要望を反映させるための政策、提案を研究する場を設けること（政策研究会、議員提案権の勉強会など）
- ⑤過去の議会で到達した議論を受け継ぎ、より進んだ議論をするための工夫をおこなうこと（議員研修会や意見交換会など）

正副議長としては、一致できるところから具体化をはかっていく所存です。議会運営委員会において、前向きな議論をすすめていただきたいと思います。